2009年度 学術交流支援資金報告書

「プロワークショップによる地域資源を活用した地方循環型集落再生研究」

政策･メディア研究科 小林博人

研究課題:

近年大都市に多くを依存してきた地方の衰退は激しく、地域固有の資源がありながら、それを活用するすべがないために没落していく集落が日本の山村には数多く見られる。アメリカマサチューセッツ工科大学(MIT)の建築都市大学院と政策･メディア研究科との協働により、プロワークショップによる地域資源の発掘およびその利活用方法の模索、林業･農業をベースとした地域単位で循環する産業と住民の生活の関係の再構築、そして地元建設技術および木材を用いた古民家再生による新居住者誘導プログラム提案、および新築住宅建設によるその定着化実験を行う。

研究経緯:

2007年より継続的に行われて来た MIT との協働研究のテーマである、「地方循環型集落再生」は、近年世界的に注目されてきた日本の里山にみるエコロジカルな生活スタイルをベースにしたサステイナブルな地方集落の再生を目している。地方集落をモデルとして、地元の物理的･社会的資源の有効利活用により、自然との共生によるエコロジカルな生活スタイルを見直すとともに、それらに現代の建築･情報技術を導入することによって基本的生活に求められるニーズを加味した新しい生活スタイルの考察を行ってきた。そして生活を支え地域微文化を醸成してきた地元の基幹産業である農業･林業の振興を行うための問題発見と発展可能性を検討してきた。これらの活動は、対象地域の活性化に役立つばかりでなく、同様の問題を抱えた他の多くの地方集落再生に寄与するのみならず、その手法はエコロジーを考慮したこれからの町づくりに貢献しうる。そして日本が固有に有する自然との共生によるサステイナブルなライフスタイルがアメリカを始めとする先進諸国の未来の地域再生の一助になるものと考えられる。

「活きる木 / 生きる地」展　於代官山ヒルサイドフォーラム

2009年度は、4月に東京代官山ヒルサイドフォーラムにて、「活きる木／生き

る地」展という今迄の活動記録を展示し、同時に同名のシンポジウムを開催し、広く対象地域における問題の所在と研究の方向性を明らかにした。その後、対象地域の現状をより詳細に把握するため、慶応側がフィールドワークやヒアリングを通して地域に積極的に入り込むことにより、伝統的に行われ引き継がれて来た生活習慣や地域特有の産業、有効と思われる地域資源を洗い出し、それらの抱える問題や発展可能性を整理した。その上で、8月に MIT と慶応によるプロワークショップを行い、建築･都市デザイン、ランドスケープデザイン、都市計画の専門家、それらを学ぶ大学院生、地域づくりに従事する地元関係者、そして地域住民を巻き込んだ地域づくりのための活動を行った。ここでは、日米の学生が5つのチームを編成し、それぞれが5つの別々の集落に入り込みそれぞれに抱える集落の現状の問題を発見し、それに対する、中長期的な町づくりの将来計画を考えた。それぞれに、水、地域産業、コミュニティ、歴史、地域文化などを取り上げ、それらに対する地域特有の形を探った。そして併行して、「田根に住む」と題したシンポジウムおよび展示会を開催し、地域に新たに居住することを目指した地域づくりでは何が求められるかを協議した。

プロワークショップ中の地元におけるヒアリング風景

また、9月より地域福祉の充実のために滋賀県社会福祉事業団によるデイセンターの企画が本格化し、慶応大学ではその基本構想を作り、その後も基本設計、実施設計に携わり、現在6月竣工を目指して工事監理補助を行っている。ここでは地域の産業である林業の活性化を目的に地元の木を用いることを目指すとともに、地域固有の建築スタイルである「余呉型」と呼ばれる古民家の空間構成、構造システムを採用した地域色豊かな建築を目指した。ここでも夏に行われたプロワークショップの知見が生かされ、地域の資源を有効に用いた計画となっている。

研究成果：

MIT および慶応の教員および学生はいわば対象地域の住人にとっては余所者であり、地域の細かい事情を理解しない人間の集まりである。このことを逆に利用して、地元住人には既知の事実であり、評価することの難しい本来対象地域が有している豊かな微文化や物理的･社会的資源を発掘し、再認識させることがプロワークショップの果たす役割であり、今回はその実践を行った。地域は継続して訪れる余所者を徐々に受け入れ、閉じた地域社会の構造を少しずつ変えつつある。閉じることにより守られる微文化を継承しつつも、開かれることによる発展可能性の発見も同様に必要だと考えの下、協働して町づくりが行えたと考える。

今後の研究の発展可能性：

本年度最後の3月21日から28日まで、MIT の教員および学生が対象地域を訪れ、小規模なワークショップによる交流を持つ。これも2010年に行われる夏のプロワークショップとの連携であり、このような頻繁な交流がより一層地域に対する関わりを増し、地域理解を助けるとともに、地域側の体制も拡充することにつながる。今後も単発的でありながら継続的にプロワークショップを行うことにより、地域の循環的再生に寄与できるよう研究を進めていく所存である。